

仁済大学国際交流に参加して

医学部医学科 4 年 熊野 志保

私は、2015年3月15日から21日の1週間、韓国釜山にある仁済大学で、PBL ディスカッションや実習、病院見学に参加してきました。九大からの女子学生が1人だったことや、英語でコミュニケーションが取れるのか、などといった不安などもありましたが、現地の方々が非常に親切で、とても楽しく、充実した1週間となりました。

PBL ディスカッションは、九大でも授業や、放課後のサークルなどで何度か体験したことがあったのですが、すべて英語で行うということや、いつものPBLと形式もかなり異なっていることもあり、非常に新鮮でした。グループは九大と似ており、1グループは7人で、先生が1人ついてくださり、途中でアドバイスを下さる形でした。PBL ディスカッションの中で模擬患者さんが実際にこられて、問診したり、身体診察を行ったりするシステムは、九大でしたことがなかったのですが、実際の診療のようでとても勉強になりました。また、ディスカッションのまとめ方も異なっており、患者さんの情報をまとめることより、症候についてのまとめを重視していて、より理解を深めやすいと思いました。仁済大学のPBLの趣旨が、自分がどこを勉強しなければならないか、どこが分かっているのかを知るために行っているということもあってか、韓国の学生は、みな自己学習をしっかりとしており、症候について班員で協力してまとめを行っていて、見習うべき姿勢だと感じました。最終日にこのまとめについて英語で発表する機会が与えられ、非常に緊張しましたが、とても良い経験となりました。

実習では尿管カテーテルの挿入実習に参加させてもらいました。10人ほどのグループに先生が一人ついて細かいことまで指導していただきました。カテーテル挿入実習は初めてだったため緊張しましたが、グループ内でも協力し合って和気あいあいとした雰囲気でした。病院見学では、NICUや治験センター、ERを見せていただきました。治験センターでは、大学病院内にありながら第1相試験から行っているということで、非常に驚きました。被験者の方が快適の過ごせるよう、さまざまな設備が整っており、日本の製薬会社からの依頼なども受けているとのことでした。

昼休みや放課後などの空き時間では、同じグループのメンバーを中心としたたくさんの学生さんたちが暖かくもてなしてくれ、様々なご飯や観光地に連れて行っていただきました。日本に比べ、辛い料理が多かったのですが、どれもとても美味しく、学外でも楽しい時間を過ごすことができました。夜景のきれいな橋に連れて行ってもらったことや、九大からの学生みんなで市場などを散策したこともいい思い出となりました。初めは、仁済大学の学生の英語力に圧倒されましたが、日を追うごとに少しずつ慣れてきて、楽しくコミュニケーションをとることができました。下手でも伝えようとする姿勢が大事だと実感すると同時に、もっともっと語学の勉強をしようと強く思いました。

最後になりましたが、このプログラムを企画してくださった九州大学の康先生、仁済大学の石大賢（Dae-Hyun Seog）先生をはじめとする先生方、支援してくださった九州大学医学部同窓会の皆様、そして1週間温かく迎え入れてくださった仁済大学の学生、職員の皆様、本当にありがとうございました。短い期間ではありましたが、非常に多くの経験ができ、またたくさんの友人を作ることができました。今回得たことをこれから活かしていきたいと思えます。